

ほたるの家

— 土壁造 夏涼しく冬暖かい暮らし —

hotaru-house

■設計趣旨

大阪から約一時間の場所にあり、ちょっと昔にタイムスリップしたような田舎町。大きな山の下には、電車が走っており景色はとても優雅です。敷地に隣接した川の水は透き通っていて、夏に蛍を観賞することもできます。都会にはない、時間軸がゆっくりした環境はうらやましくらいです。

お施主さんはこの景色と空気感に惹かれ、この土地の購入を決めました。その借景を大事に、よりキレイに見えるように建物の計画することを心がけました。お施主さんは昔ながらの日本家屋が好きで、重厚感のある梁や柱がご希望でしたので、ダイニング・リビングに松の太鼓梁・丸太を取り入れました。

間取りは「家全体を一間としても使えるようにしたい」とのご希望も、引き込み戸など建具を利用して、フレキシブルに間取りを利用できるようにすることで叶えることができました。

土壁は私がおすすめしました。当初は「土壁は寒そう」と懸念されましたが、現代の断熱材、ガラスなどを取り入れることで夏涼しく、冬暖かい温熱環境を実現することができました。

■夏涼しい

日本の夏の1番の天敵は、気温の高さというよりもジメジメとした湿気の多さです。気温が高くても湿度が低ければ、それほど不快には感じないものです。田舎の土壁の家でひんやりとした風を感じたことある方も多いと思います。それは、土が湿気を吸い取ってくれているから。また、土壁は外部の温度変化に対してとても緩やかなためです。極端な温度差を嫌う味噌やしょうゆ・酒などの醸造小屋が土壁なのもそのためです。

また、この敷地は四方建物に囲まれておらず、南北・東西風が抜けるように窓を配置しているので風がよく通ります。

窓の位置・建具の工夫によって、風を自在に取り込み動かすことで快適性を確保することができます。

夏はおそらく冷房はいらないのではないかと思います。

■冬あったかい

この地域は冬は都会と比べて5℃くらい低いので寒さに対しては十分な対応が必要になってきます。昔のような土壁の家は寒いと言われていました。昔の家は隙間の多い家だったことを除いたとしても、土壁の家は寒いかもしれませんが、土壁って実は断熱性はそれほどよくないんです。昔は今のように入断熱材がなかったので、土を断熱材代わりに使っていたに過ぎないのです。土壁は今のグラスウール断熱材の1/20の断熱性能しかありません。しかし、この家には土壁だけでなく現代の断熱材を付加することで断熱性は格段に上げることができました。

土は調湿性が優れているだけでなく、蓄熱性が高いことも特徴の一つで、冬にはこの蓄熱性がとても効果的なんです。蓄熱性が高いということは、熱が逃げにくいということで、一旦暖まると室内は暖房を消したとしてもなかなか冷えません。今回薪ストーブ一台で家全体の暖をとり、室温を一定に保つようになっています。蓄熱された土壁が付加断熱によってさらに熱が逃げにくくなっているため、寝る時に薪ストーブを消しても朝まで暖かい状態が続きます。

<p>■構造 木造在来土壁外断熱工法</p> <p>■外部仕上げ</p> <p>屋根：ガルバリウム鋼板立平葺き 3.2寸・2.2寸・1寸勾配</p> <p>外壁：そとん壁(火山灰)</p> <p>■内部仕上げ</p> <p>床：杉無垢板(赤味勝ち) 30mm</p> <p>壁：土壁中塗り仕上げ・桧板張り(浴室・洗面)</p> <p>天井：杉上小野地板構造現し15mm・杉板張り10mm</p>	<p>■規模</p> <p>敷地面積：656.15㎡(202.41坪)</p> <p>建築面積：95.70㎡(28.94坪)</p> <p>1階床面積：87.66㎡(26.51坪)</p> <p>2階床面積：30.43㎡(9.20坪)</p> <p>延床面積：118.09㎡(35.72坪)</p>
---	---

ほたるの詳細はブログに載っていますので、お暇なときにご覧ください。
<http://www.ameblo.jp/lineworks-architect>

設計者 一級建築士(第350935号) 水谷 賀一

■家の特徴

●景色を意識した家になっています。

北→綺麗な山の下に電車が走っていて絵になる借景。また敷地に面した川には夏に蛍を観賞することができます。

川に平行に屋根付きの縁を設けて、そこに造り付けの椅子に座りながら蛍を観賞できるようにしました。また、ダイニング続きにすることで、半外部で食事を楽しめるようにしています。また、ロフトから縁の屋根の上に降りられるので、そこからの展望も楽しめます。

南→採光条件が一番いいので、気持ちのよい空間。道路から下がったところにあるため、プライベートな使い方が可能です。

丁度井戸があるので、子供たちの遊び場となるように、広めにとっています。リビングから気軽に出入できるようにしています。また建具は全開口できるので、中にも開放的な庭の景色を楽しむことができます。

東→東にも北面とまた違った形の山の景色があるのですが、隣には別の方の畑があります。

1階は隣の畑からの人の視線を外すため、水回りなどを配置して閉鎖的とし、階段を登った2階にはFIXのガラスから山が見えるようにしています。東は朝に陽が射すので、1階まで光が届くように階段に吹き抜けを設けています。

西→道路から敷地に入って玄関まで10m近くあるので、長いアプローチを楽しめるように、庭を計画する予定です。家の中へアプローチする空間は雰囲気を持たせるとつながりのよい空間になります。

●フレキシブルな間取り

引き込み戸と多用することによって、家が一間に変身。開放的にも閉鎖的にも使えるので、これからの生活の変化に柔軟に対応できるようにしています。

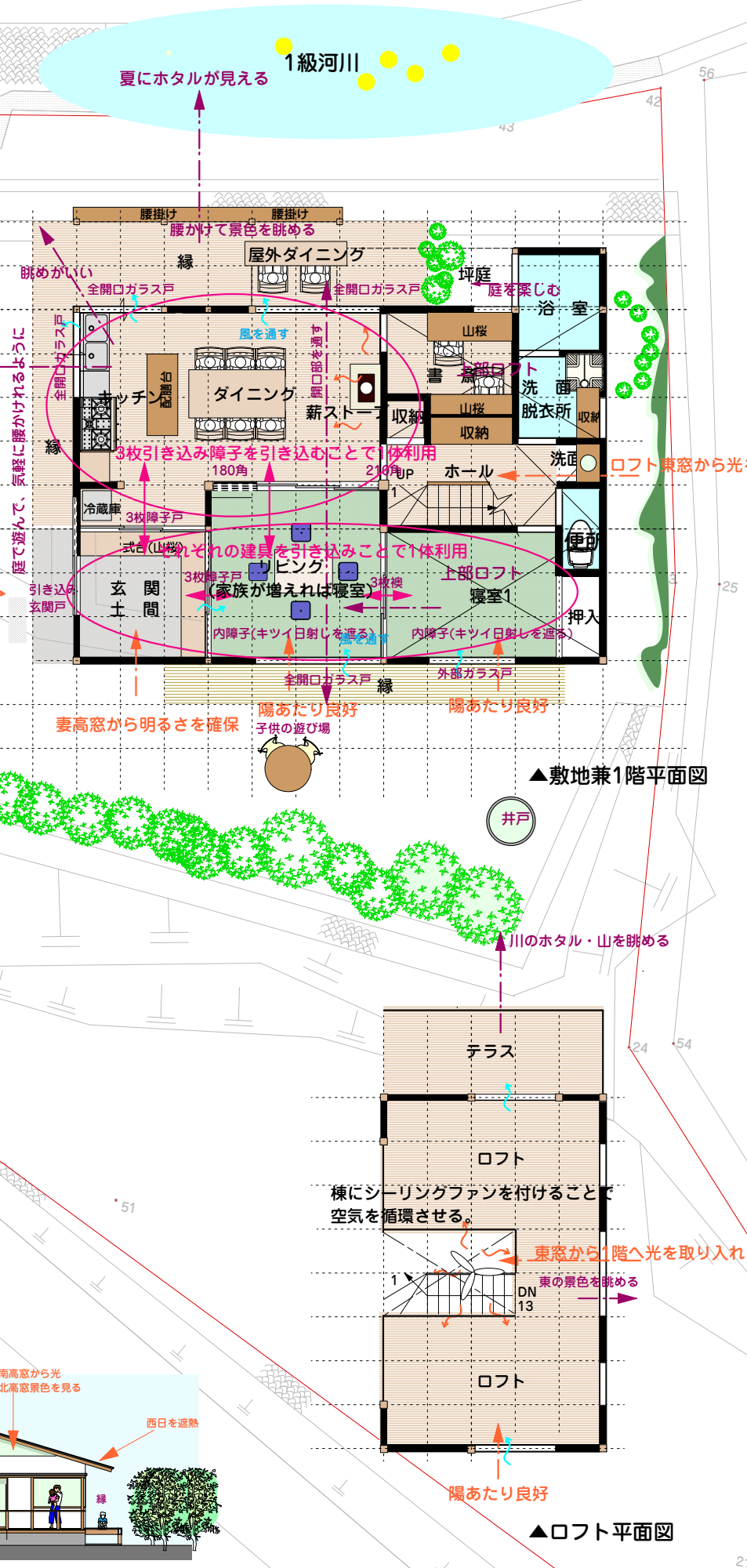
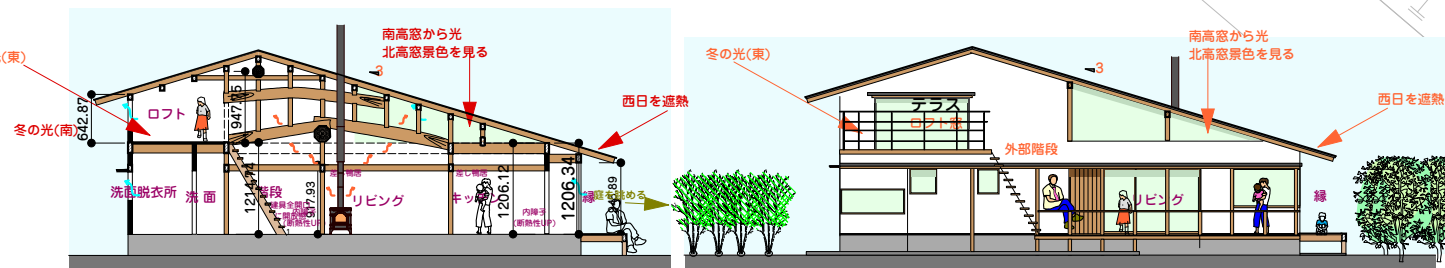
●中と外の境界を曖昧に

北の屋根付き縁に面するダイニングの外部木製建具を全部収納できるようにすることで、部屋内のダイニングと外の縁が一体利用できることで、自然と自然を感じることができるようにしています。南のリビングも同様になっています。また、ダイニングとリビングの外部木製建具の位置を同じにすることで、南北視線が通るようにしています。

●楽しめる空間を多く作る。

田舎の土壁の家でひんやりとした風を感じた経験ないですか？土の調湿効果が湿気を吸い取ってくれるため、室内は外気に影響されず常に一定の湿度を保てられます。

また、この敷地は四方建物に囲まれておらず、南北・東西風が抜けるような間取りにしているので風が通ります。室内においてもフレキシブルに開閉できるので、室内に風は行き届きます。



▲敷地兼1階平面図

▲ロフト平面図